岡豐風日

〈高知県立歴史民俗資料館だより〉 第27号 1998年4月1日

武人板垣退助の自由民権運動

前高知大学教授 福地 惇

自由民権運動というと民主主義と平和主義の運動だったかのように説く学説があるが、これは間違いである。民権運動が、「士族民権」から「豪農民権」へと発展したことは周知の事実である。運動基盤の拡大に連れ理念問題の枠組を超えた実利問題（例えば地租軽減や地方への利益誘導）へと運動の幅は広がった。しかし、民権運動の理念は、その根底において一貫していた。民権拡大による国権確立という綱領においてである。およそ四半世紀にわたって民権運動の最高指導者だった板垣退助の政治意識と行動はその点を象徴している。

幕末期、上士としては数少だった勤王主義者の板垣は、慶応三年に土佐の藩論＝山内容堂・後藤象二郎の公武合体的大政奉還路線に対抗して、中岡慎太郎と連携、薩土討幕密約を締結して、結果的には鳥羽伏見の戦い以後につながる土佐藩の政治的活動基盤を創出した。

板垣は、気質的に理義を尊重した。また武人肌で軍略家・軍司令官的資質に富んでいた。藩士時代は儒教的政治倫理（王覇の弁・君臣の義・大義名分）から発する勤王論を持した。例えば、藩論の大政奉還論に対して「徳川氏馬上天下を取れり。馬上之を復して王廷に奉ずるに非ずんばいかでか二百有余年の覇政を全滅するを得むや。無名の師は固より王者の与せざる所なれども、今や幕府の罪悪天下に貫盈す。この時に及んで断然討幕の計を成す可し」と諫言して、容堂から「退助亦暴論を吐くか」と叱られたと伝えられる（大町桂月『伯爵後藤象二郎』）。明治十六年、藩閥政府は自由党総理板垣を洋行に誘い出して政治思想を軟化させようと工作した。在欧の西園寺公望の報告書に「板垣は……只管理学に類せし事而已申し居り……如此にては洋行も無益と存じ候て……有名の人などに引き合わせ、議院見物など致させ候。しかし、何分頑固にて欧州英雄運用の妙などは決して分かり申さず。只々理学に一遍する者の如し」（岩倉具視宛書簡）とある。理学とは哲学・倫理学・国家学・法律学等を意味するが、理義を尊ぶ性向を確認できよう。

軍略家・軍司令官的資質の板垣は、事実戊辰戦争でその面での優秀さを世上に認められた。西郷隆盛も、板垣の軍人的資質を高く評価していた。そのような板垣が、軍事的・国防的観点から四民平等・公議輿論政治の有効性を強く意識した事は重要である。それが政党運動指導に色濃く反映したであろうからである。

大正七年、国家学会編纂の論文集『明治憲政経済史論』に板垣は「我国憲政の由来」と題する論文を寄せ、実歴を踏まえて日本の憲政発達史を叙述した。そして、会津戦争で武家と庶民の自己防衛意識の強弱分裂が雄藩会津の力を半減した事実を目撃したのが、四民平等を尊重せずしては愛国心や挙国一致の創出は至難事だとの認識を固める直接的契機になったと特筆した。そして「維新変革の動機は、実に公議輿論の力を以て皇室の大権を克服し、国民の自由を挽回し、内に在っては一君の下、四民悉く平等たるの大義を明らかにし、以て挙国統一の基礎を定むると倶に、外に向っては波涛開拓の大策を決し、以て万邦対峙の規模を確立するに在り」と述べた。前後の脈絡は整理されているが、民権拡大が国権確立、つまり万国対峙の前提条件であると言ったのである。要するに、民権主義は国権主義と表裏一体だった訳である。

企画展　後期会期　四月二六日(日)～五月三一日(日)

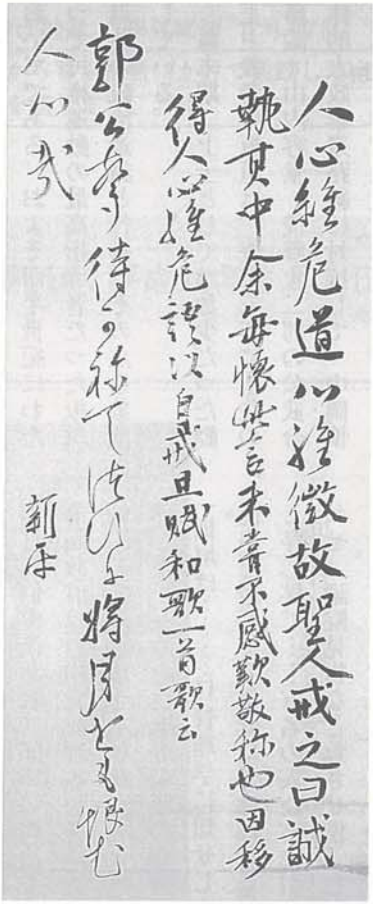
「歴史と美術――維新の群像――」（後期）の展示資料から

曽我満子

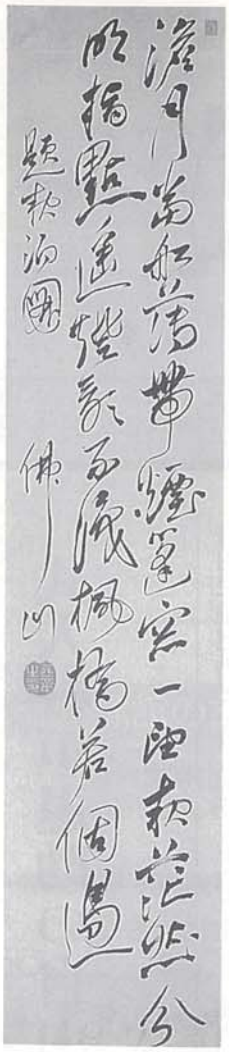
「歴史と美術――維新の群像――」後期のみどころをご紹介いたします。後期の展示では維新後に関連した資料を多く展示します。

幕末期には土佐出身の多くの志士たちが活躍しました。しかし、坂本龍馬など維新前夜に命を落とした者もいました。また、維新直後の混乱の中で命を散らせていった人々もいました。

左の写真は、堺事件で知られる箕浦猪之吉の書です。箕浦は土佐藩教授役の家に生まれ、山内容堂の侍読となり、藩校致道館の助教となりました。鳥羽伏見の戦いののち、泉州堺の警備の六番隊長に命ぜられ、フランス軍艦の乗員と紛議をおこした堺事件の責任を負って、切腹となりました。切腹時の壮絶さは後々まで語り継がれています。この書は彼の最期とは裏腹に、暗闇に漁船の篝火だけが浮かび上がった静かな夜の情景を詠んだものです。



江藤新平「郭公聲待かねて」（個人蔵）



箕浦猪之吉　七言絶句
「題夜泊図」
（個人蔵）

【訓読】

澹月船に当って薄く煙を帯ぶ。蓬窓に一望すれば　夜は荘然たり。分明に指點す　遥燈の歌。識らず　楓橋は若個の邊なるかを。

夜泊の圖に題す。佛山

・澹月…淡い月の光
・蓬窓…とまを掛けた舟の窓
・楓橋…中国蘇州市の郊外にある橋
・若個…いずこ

明治維新を経て倒幕で一致団結して戦ってきた人々もやがて政策の違いから対立するようになってきました。征韓論が破れた板垣退助・江藤新平らは下野し、新しい生き方を探りました。江藤は佐賀藩出身で、新政府においては司法卿となり、近代的な司法・警察制度の確立に力を注いだ人物です。不平士族を代表し、佐賀の乱をひきおこしました。形勢不利とみた江藤は戦場を離れ、密行中、土佐甲浦で捕縛されました。これは高知へ護送される途中に香美郡岸本の畠中家において県少属細川是非之助に書き与えたものと伝えられています。郭公の歌によせて自らの私欲の心を戒めた内容となっています。

【訓読】

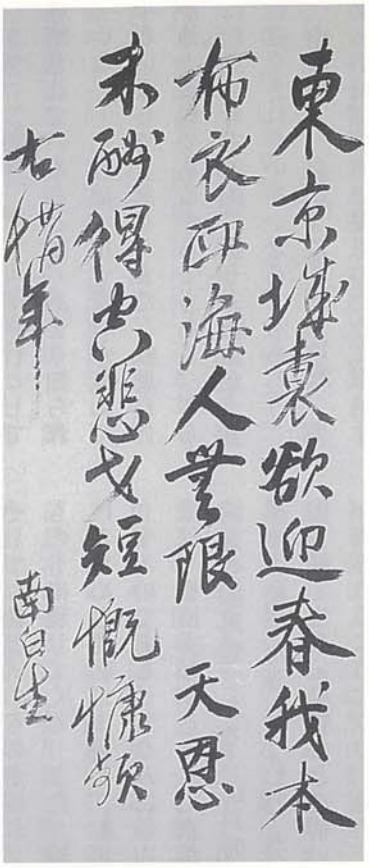
人心これ危く、道心これ微なり。故に聖人これを戒めて曰はく、「誠にその中に執れ」と。余この言を懐ふごとに、未だ嘗て感歎敬称せずんばあらざるなり。因りて「人心これ危し」の語を移し得て、以て自戒し、且つ和歌一首を賦す。歌に云ふ、郭公声待ちかねてつひには月をも恨む人心かな　新平

・人心…私欲の心　対語　道心

もう一点、同時期に土佐で書かれたものが出品されます。以前に東京で詠んでいたものを土佐郡神田村の捕亡吏・小山太吉郎に書き与えたもので、天皇に対する忠誠心が表現されています。近代的司法制度の確立に努めた江藤でしたが、最期は皮肉にもさらし首の極刑に処せられました。

【訓読】

東京城裏　春を迎へんと欲す
我は本と布衣　西海の人　無限の天



江藤新平　七言絶句「惜年」
（高知市立自由民権記念館蔵）

恩　未だ酬い得ず　空しく　才短を悲しみて　慨慷頻りなり

右、年を惜しむ　南白生

・布衣…官位のない者
・西海…九州
・慨慷…嘆きいきどおる

谷干城は軍人としてよく知られています。一八七七年、西郷隆盛率いる薩摩士族は熊本鎮台のある熊本城への攻撃を開始し、西南戦争が始まりました。谷らは熊本城に籠もり、一ケ月以上にも及ぶ籠城戦となりました。谷の妻玖満子が城内にいて尽くしたことはよく知られています。

この詩は西南戦争（二月一日に勃発し、九月二四日に西郷が自刃）後、その年の暮に熊城（熊本城）において詠んだものです。維新後、夢のように過ぎ去った十年間をふりかえって自らを船に、役人生活を海にたとえています。

【訓読】

身は洋中に繋がれざる船に似たり。十年の官海　安全ならず。頭を回らせば往時は都べて夢の如し。又熊城に在りて暮年を餞る。

丁丑の歳暮、偶たま成る。

海南古狂干

士族たちの反乱を経て世の中が次第に落ち着いてくると日本をとりまく諸外国の情勢に目を向ける必要に迫られました。

土佐出身の阪井重季は、数々の軍功をたてました。日清戦争では台湾出兵、凱旋後、松山旅団長となりました。この詩は明治二九（一八九六）年松山の兵団において西龍（中国）・北鷲（ロシア）・咸鏡（朝鮮半島北部）の情勢を憂慮し、風雲（変事）に備え、兵士の訓練を怠ってはならないと述べています。阪井の予想通り、この後朝鮮半島をめぐって日露戦争が起こりました。

谷　干城　七言絶句
「丁丑歳暮偶成」
（個人蔵）

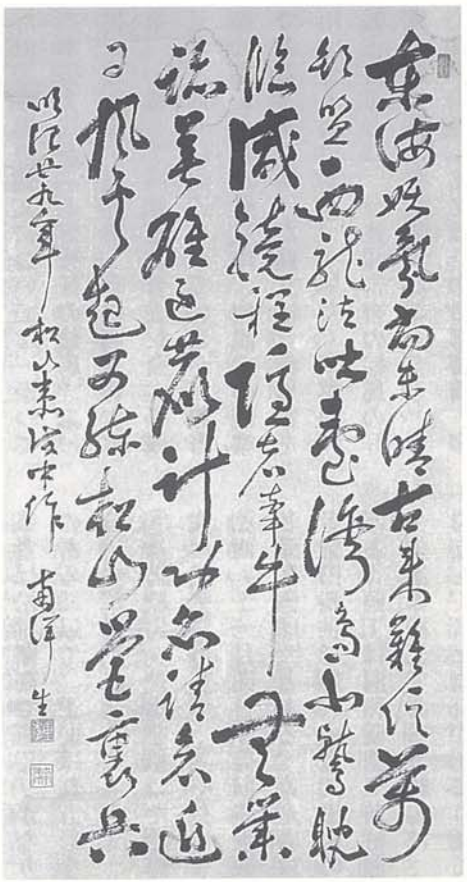
【訓読】

東海の妖氛尚ほ未だ晴れず。古来信じ難し　萬邦の盟。西龍泣いて吐く臺湾の島。北鷲睨んで臨む　咸鏡の程。隠者は牛を牽いて業跡無し。英雄は鹿を逐ひて功名を計る。請ふ看ん　近日風雲起こるを。練るべし松山営裏の兵。

明治廿九年、松山衛戍中の作。

南洋生

・妖氛…あやしい気配



阪井重季　七言律詩「明治廿九年松山衛戍中作」
（谷　是氏蔵）

以上、展示資料をピックアップしてご紹介いたしました。他にも多数資料が展示されます。後期の展示資料は前期と全点入れ替えの予定です。ご来館をお待ちいたしております。

絵馬研究への新視点

岡本桂典
曽我満子

1

一九九七年の春に「土佐神社の名宝」展を開催した。その時に六点の絵馬を土佐神社より借用し展示した（一点は本館寄託）。展示するまでの短い時間に絵馬の銘文の判読を赤外線で試みた。その時に新たな銘文を確認した。しかし、長年懸けられた絵馬は、銘文の薄れや彩色の剥落（はくらく）が著しい。そこで、剥落した絵がどれくらい確認できるか、赤外線を用いて絵の確認も併せ試みた。描かれた人物の数など、肉眼で確認できなくてもある程度まで赤外線により確認できることが判明した。赤外線撮影が絵馬の調査では有効であることを再認識することができた。

さて、「絵馬」が考古学資料として理解されていることは、あまり知られていない。それは、出土資料が極めて少ないからでもあり、また、絵馬自体が地上資料であるからでもある。さらに絵馬を考古学的に扱う方法論が十分に確立されていないからでもあろう。

絵馬は、一般的に神社や仏殿、小堂・小祠に祈願や謝恩のために奉納する絵入りの板絵と理解されている。絵馬は、古くは神に馬を奉納したことにその起源があると考えられ、さらに土馬や紙馬や木製馬形などを奉納して種々の祈願や祈雨や水霊信仰ともかかわっていたとも考えられている。

絵馬の奉納習俗は、奈良時代からあり、静岡県浜松市伊場遺跡、奈良県大和郡山市稗田遺跡から絵馬が出土している。平安時代から鎌倉時代、南北朝時代の絵馬の遺存資料は少ないが、絵巻物に描かれた絵馬によってその様相を知ることができる。室町時代の紀年銘をもつ絵馬は、意外と残存しており、この時代から馬の絵以外のものが出現し、大型化してくる傾向がみられる。そして扁額型式のものが現れ、豪華なものも出現してくる。また、絵馬を懸けるための建物が出現し、絵馬堂が成立するのである。ちなみに最古の絵馬堂は、豊臣秀頼が造営した京都北野天満宮の絵馬堂である。江戸時代には、種々の絵馬がみられ武者・芸能・風俗・船・生業・動物などを描いた絵馬がみられるようになり、地方にも普及した。中世にみられる小絵馬は、民間信仰的要素を含みながら、現代まで庶民の間に受け継がれている。

2

土佐では、現在まで中世の紀年銘のある絵馬は、確認されていない。土佐の絵馬については、高木啓夫氏がかつて高知市立自由民権記念館で開催された「絵馬にみる土佐の歴史とくらし」展の図録の中で「土佐絵馬～その二・三の特徴と保存を考える～」（『絵馬―土佐の歴史とくらし―』）と題して土佐の絵馬について論じている。そこで、本稿では、土佐神社の絵馬の中で新たに確認された銘文について記述し、さらに、紀年銘をもつ土佐の江戸時代の現存絵馬から江戸時代における絵馬の形態的な特徴を若干検討したい思う。

まず、土佐神社所蔵の絵馬の中で館で借用した絵馬の銘文について記述したい。絵馬の銘文については、かつて高木啓夫氏が「土佐神社の絵馬」（『一宮・布師田・高知市文化財調査報告書第一一集』高知市教育委員会　平成三年三月）に記述されているが、報告書に掲載された銘文は、肉眼での観察である。次に掲げた銘文は、赤外線を用いたものである。（なお、文章中の報告書1とは、前述報告書の絵馬の写真・解説番号を意味する。）

①風俗絵馬　銘文は「奉掛御寶前　享保二十（一七三五年）歳乙卯歳閏三月吉辰」とあり、絵馬（本館寄託）の作者は不詳である。絵馬の形態は、正面からみた形は、屋根型で若干軒の出た形をなすもので脚部は短い。このような大型絵馬の枠には銅製品が用いられていることが多い。絵を描いた板絵は、三枚と考えられる。（報告書5）

②千石舟絵馬　千石舟を描いた絵馬で、銘文は「奉懸御神前　延享（一七四四～一七四八）□□　五日　種崎屋」とあり、裏面には「大坂山本町　堀尾伊左衛門畫工」とある。絵馬の形態は、長方形をなし、この絵馬は対となる。絵馬の枠には、銅製の飾り金具が使われている。（報告書3・22）

③諸葛孔明絵馬　画題は、中国三国時代の蜀漢の丞相（じょうしょう）諸葛孔明を描いたもので、銘文は「享和二年（一八〇二）壬戌六月吉日　松村仲素寫　印」とある。筆者は松村蘭臺（まつむららんだい）である。かなりの重量のある絵馬で、正面は長方形をしている。（報告書1）

④神馬絵馬　神馬を描いた絵馬で、銘文は「奉懸御寶前　文政八（一八二五）乙酉　十一月朔日　柴田勝世敬白　洞和愛徳画印」とある。寄進者は、国学者柴田勝世で藩の中老柴田家の一族である。画工は洞和愛徳（前村洞和）で、土佐藩の画工である。絵馬は、屋根形をなし、軒と脚部が①より長くなって

いるのが特徴である。（報告書12）

⑤神馬絵馬　神馬を描いた絵馬で、銘文は「奉□御寶前　天保十（一八三九）年己亥十一月朔日　柴田長五郎勝世敬白　畫所預従四位［　　］」とある。寄進者は、柴田勝世である。正面の形態は⑤と同じである。（報告書15）

⑥神馬絵馬　神馬を描いた絵馬で、銘文は表に「奉掲　山内豊著拜上」とあり、裏面に「嘉永六（一八五三）年癸丑歳十二月吉日」とある。寄進者は、分家南邸山内氏で、十五代藩主山内豊信（容堂）の父である。描かれた馬の腹部に山内家の紋、三葉柏がある。正面の形は④と同じである。（報告書14）

以上が、今回確認した土佐神社所蔵絵馬の銘文である。

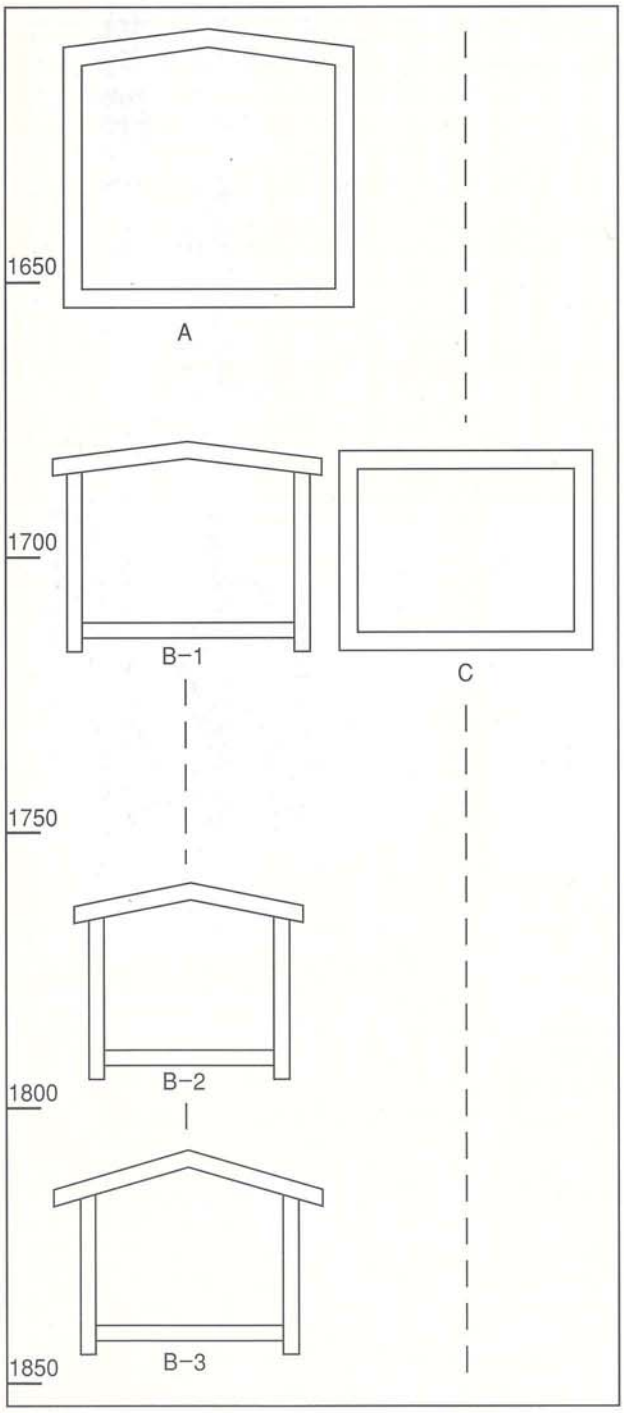
3

江戸時代の絵馬については、先に掲げた『絵馬　―土佐の歴史とくらし―』に「江戸期絵馬年号分布表」なるものがあり、ここに土佐に於ける江戸時代の絵馬の年号分布を知ることができる。江戸時代の絵馬を観察していて、年号の不明のものや消えているものが多いことに気づく。絵画から描かれた絵馬の年代を推定することはある程度可能であろう。しかし、絵画とは別の方法で、年代を推定することはできないものであろうか。そこで、先の「江戸期絵馬年号分布表」と土佐神社の絵馬から年代によって絵馬の形態がどのように変化しているのかみてみたいと思う。これは、あくまで少ない絵馬から得られた情報であり、これが全てに当てはまるとは限らない。一つの試案である。なお、小絵馬は除いている。

土佐に現存する江戸時代の絵馬で現在最古の絵馬は、吾川郡伊野町椙本神社所蔵の朝比奈三郎草摺り引きの絵馬で、大きさは七〇×九〇㎝、正保三（一六四六）年の銘がある。絵馬の形態は、頭部が低い三角状をなすもので、図のAタイプである。次は春野町芳原観正寺観音堂蔵の曳馬の絵馬で、一三九×一五二㎝で、慶安元（一六四八）の絵馬である。絵師は、「絵師摂州大坂城府忠政　泉州樋口七郎兵衛」とある。絵馬の形態は、Aタイプである。一七世紀代には、このAタイプの絵馬が多いようである。

Aタイプの次にみられるのは、Aタイプに屋根がついたような形の絵馬で、軒がみられ、さらに脚部がついている。ここでB―1としている絵馬の形態である。特徴は、頂部の角度が大きく軒の出と脚部の出が短い。このタイプの絵馬には、土佐神社所蔵の先に述べた①の享保二十年（一七三五）一二一×一六七・五㎝の風俗絵馬がある。また、安芸市の杉尾神社の宝暦三年（一七五三）の八四×一〇七・五㎝の松に鷹の絵馬がある。この形態の絵馬は、一八世紀にみられ、やや軒や脚部の出が長くなるタイプの絵馬は、一八世紀後半よりみられるようである。B―2のタイプである。一九世紀になると屋根の角度は、B―1・2により角度はやや小さくなり、軒がかなりでている。これは、角度が小さくなった関係かも知れない。そして、脚はかなり長いタイプがみられる。B―3のタイプである。絵馬下部の幅が最大幅より狭くなるものもある。Cタイプの絵馬は、江戸時代全期間通じてみられ、江戸時代以後にもみられる。明治時代には、B・Cタイプの絵馬などを中心に多様なタイプの絵馬がみられる。

以上、極めて簡単に土佐神社の絵馬調査中に感じた所感などを述べた。今後は、山村地域の絵馬にも眼を向け、別稿で詳細な報告をしたいと思う。



年代　　土佐における江戸時代の絵馬変遷案

資料紹介

四万十川の漁具（2）　箱眼鏡

中村　淳子

箱眼鏡は、魚を探索するための漁具である。板ガラスによって、直接水に顔を晒すことなく水中を見通すことができる。板ガラスが本格的に工業生産されたのは明治時代で、箱眼鏡の歴史はそう古いものではない。しかも、主役の座にあるのも短かった。潜水ができる密着式の水中眼鏡が登場したのである。だがその後、乱獲に繋がる水中眼鏡を用いる漁は禁止され、一方で箱眼鏡は今も使って良いのだから何が幸いするかわからない。とはいえ、四万十川の透明度は低くなり、箱眼鏡で覗いても昔ほど遠くまでは見えないそうだ。

さて、箱眼鏡のさまざまな形の違いは、何によるのだろう。ここでは、三種類の箱眼鏡を見ていこう。

まずは、十和村小野の中脇定義氏にご寄贈いただいた鮎の箱眼鏡である（写真1）。鮎を釣り針にかけるシャクリ漁やピンピン漁にかつて用いたものだという。子どもの頃は水中銃で遊ぶときにも使ったそうだ。箱眼鏡で、下流から泳いでくる鮎を見る（図1）。

次は、中村市三里の岡村三男氏が寒鯉漁に使ってきた箱ビンである（写真2）。鯉を網で囲い、箱ビンで船から鯉を見てカナツキで突く（図2）。

ゴリの箱眼鏡は西土佐村江川崎の芝輝男氏からいただいた（写真3）。箱眼鏡でゴリを見てエビタマで一匹づつすくう漁に使われた。徒（かち）で川に入り、川底の石を足でかいて水を濁らせると、ゴリは下流へ逃げ、不思議とすくいやすい丸い岩に登るという。取ったゴリはハエナワの餌にしたそうだ（図3）。

シャクリやピンピンで鮎をとる場合、斜め下前方を見据える姿勢になる。そのため箱眼鏡は台形で、斜めの面にガラスを取り付けている。深い淵にいる鯉をとる箱眼鏡は、下方を覗き込む姿勢になるため、下面がガラスの四角形である。ゴリの場合も下方を覗き込む方式で、鯉と同様であるが、ゴリがいるのは浅いところなので箱眼鏡と対象の距離が短く、広範囲を見るために箱眼鏡が大きくなくてはならない。

このように箱眼鏡を比較してみると、採取する魚の生態や漁法によって、人がそれを用いるときの姿勢が異なり、さらに、それが箱眼鏡の形に反映しているのである。

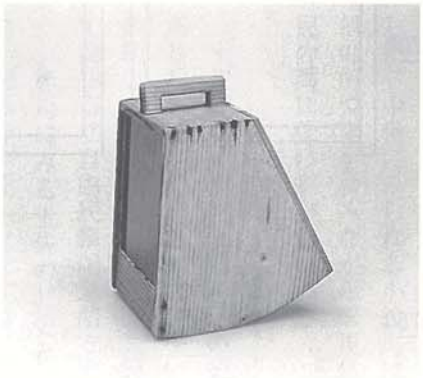


写真1　箱眼鏡
〈縦：25.8cm　横：18.3cm　杉〉

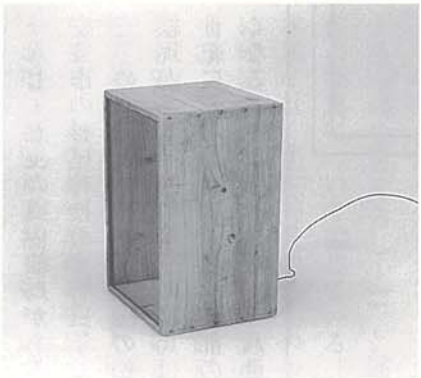


写真2　箱ビン
〈縦：28cm　横：18cm　杉〉

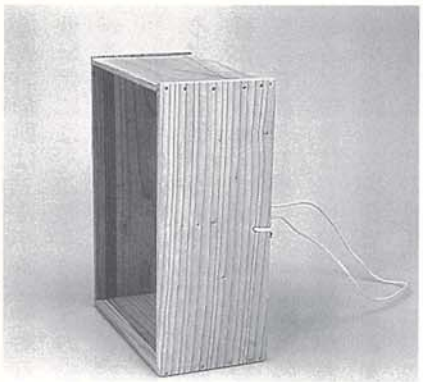


写真3　箱眼鏡
〈縦：35cm　横：26cm　杉〉

※寸法は3点ともガラスのある面の縦横

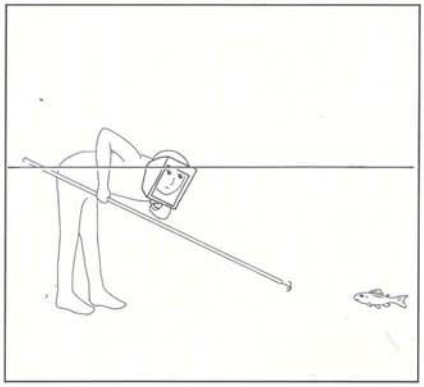


図1　鮎のシャクリ漁

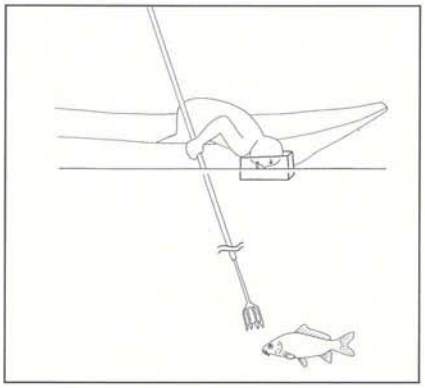


図2　寒鯉漁

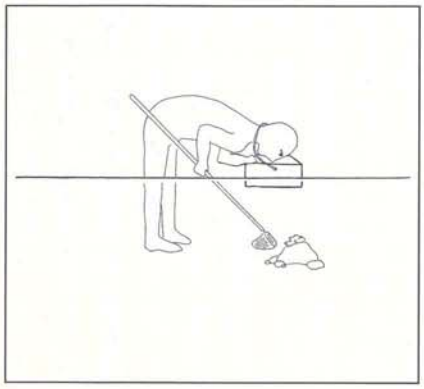


図3　ゴリのエビタマ漁

企画展『いざなぎ流の宇宙』終了

一月二十五日、約二ケ月間続いた『いざなぎ流』展が無事終了しました。十一月二十九日の「いざなぎ流の宅神祭」には、約百八十名もの方々が見学。保存会の面々の熱演が素晴らしかった。三〇日のシンポジウムも、これまた会場に入り切れない盛況で、高木啓夫、小松和彦、斎藤英喜、山本ひろ子の諸氏が終日いざなぎ流を語り合いました。

展示については来館者のアンケートから拾ってみました。

いざなぎ流の宅神祭には、たくさんの方が県内はもちろん、県外からこられた。(97.11.29)

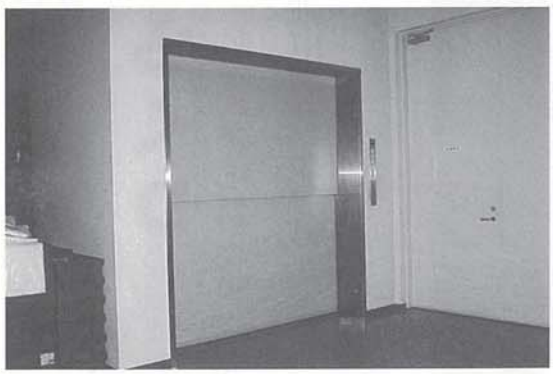
「若い時勤務した所であり母の里は物部であり一族に太夫さんをした人がいたので大変興味深かった。どれを見てもなつかしい物を感じる」(高知市、女性)など、物部にゆかりのある人が、多く来館下さったようです。

「このような古文化が深く静かに根づいていた事に土佐人としてほこりに思う」(芸西村、女性)「その土地に残されてきた物を、まして光の当たらない民俗分野の物を取り上げたこと自体すごい」(高知市、女性)「見たことのなかった〝文化〟にふれた。知った。この技術(技)がなくなるのはおしい。くらしの中に〝美〟をつくる力をもっていたことはすばらしい。その謙虚な心を私たちは失いつつあると思う」(高知市、女性)〝いざなぎ流〟は県民にあまり知られていないテーマでしたが、このような声を聞くと結果としては成功だったと思います。

一方、「説明がもっと欲しかった」(物部村、女性)「今回の展示では、主役の太夫の姿、それを取り巻く地域の人々の姿が見えて来なかった。太夫たちの祈祷を見せてもらって(中略)ようやく並べられている一つ一つの物の意味が分かってきた。こうした種類の内容を展示という静の固定された場であつかう事のむつかしさを感じた」(静岡県、男性)という展示手法についてのご意見も多く目にしました。見やすくわかりやすい展示を心にとめながら、次の励ましのお言葉を胸にしてこれからもがんばります。「いつも何をやっているのか気になる博物館です。これからも高知らしい特色のある展示を続けて下さい」(中村市、女性)

(梅野光興)

民家が神楽舞の舞台になった。(97.11.29)



歴民スポット⑮

大型エレベーター

館内にはお客様用のエレベーターの他にもう一台、資料運搬用の大型エレベーターがあります。模型など大きくて重い資料の展示替え時にはなくてはならない存在です。一度に三トンもの重量物を乗せることができます。一階の搬入口に近い所にあり、館外から入ってくる資料を最短距離で展示室へ運び込むことができます。資料用なので余計な振動を与えないよう、昇降速度はかなり遅くなっています。

(曽我)

4～6月の催し物

〔企画展〕

4.26～5.31	歴史と美術 —維新の群像—（後期）	幕末から明治時代にかけて活躍した著名な土佐人の書などを展示します。

〔講演会〕午後2時～4時　聴講無料　葉書にてお申し込み下さい（定員100名まで。先着順）

5.16(土)	維新政権と土佐 —戊辰戦争・藩論・改革—	福地　惇先生（前高知大学教授）

〔子ども歴史教室〕＊電話などで事前にお申し込み下さい。（親子連れ可・先着順）

5．9(土)	れきみん探検	普段目にすることのない博物館の裏側を探検し、展示以外の博物館の活動を学芸員と一緒に体験します。
6．27(土)	土器にさわろう	宿毛貝塚等から出土した土器や貝類を子ども学芸員になって洗浄し整理します。（定員30名）

〔史跡巡り〕申込書にて受付　参加費必要　申込多数の場合は抽選。（申込締切　5月17日）

5．30(土)	宿毛市史跡めぐり	藩政初期から幕末維新にかけて活躍した宿毛出身の人物等を中心に関係史跡を巡ります。

臨時休館のお知らせ

館内資料燻蒸のため臨時休館とします。**臨時休館日：平成10年6月9日(火)～6月14日(日)**

予告

特別展

からくり

夢と科学の世界

—細川半蔵とその時代—

●会期　七月一七日～九月二三日

名著『機巧図彙』の作者細川半蔵頼直（よりなお）は、土佐の生んだ優れたからくり技術者であると同時に天文学者でもありました。

本展では、3階特設会場も利用して、全国のからくり作品の傑作や江戸時代の科学技術関係資料を一堂に展示します。また、からくりの実演やビデオも楽しんで頂く予定です。

〔歴民館日録〕

月日	出来事
二月十四日	子ども歴史教室「火おこし」
三月二十日	企画展「歴史と美術」開幕 テープカット
三月二一日	親子史跡めぐり
三月二八日	企画展講演会

〈ひとこと〉

「維新の群像」の肖像写真を準備していて思ったことですが、皆個性的で、気骨のある顔だと感じました。（曽我）

〈お詫びと訂正〉

『岡豊風日』第26号「土佐の鰐口(3)」の2段目8行目の「高知市久万の正法寺」は、「高知市久万の金性院」の間違いです。訂正してお詫び申し上げます。

平成十年四月一日
編集・発行　高知県立歴史民俗資料館
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1
TEL　0888(62)2211
FAX　0888(62)2110
開館時間　午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
休館日　毎週月曜日（祝日及び振替休日にあたる場合は火曜日）12月28日～1月4日
入館料　通常期（常設展）大人（18歳以上）400円
団体（20人以上）320円
高校生以下は無料
療育手帳・身体障害者（1・2級）手帳・障害者手帳所持者とその介護者（1名）、高知県長寿手帳所持者は無料
印刷・㈲飛鳥